



病棟紹介②

3階東病棟 (外科病棟)



「包交お願いしまーす。」

8時45分、3階東病棟の朝はこの看護師の声から始まります。日勤の看護師と、朝のカンファレンスを終えた医師が集合し、手術後の創部の消毒に回るこの包交（包帯交換）は、チームワーク良く行われます。

「傷は痛みますか？夜は眠れましたか？」消毒をし、言葉を掛けながら、手術創、各ドレーンといわれる管類からの排液量や性状、固定状況、顔色や表情など短い時間にいろいろなことを確認しています。

その後、看護師は、検温と呼ばれる患者様の状態観察に回ります。熱、脈、血圧、呼吸状態など、個々の状態に合わせた計測などを行います。この時、消毒のない患者様や、手術に関連しない患者様も合わせて回ります。

検温が終わると、タオルによる清拭、シャワー浴、入浴など患者様の状態に合わせて清潔ケアを行っていきます。最近では、「早期離床」と言って、手術後、なるべく早めに体を動かすことが、肺や循環に良いとされていますので、看護師は患者様の状態を見ながら、まずは体を起こし、次に足を下げ、出来れば歩行へと誘導していきます。手術後早期に歩くことを説明すると驚かれる方もいらっしゃいますが、その理由に納得されると皆様しっかりと頑張られます。特に日本の高度成長期の基礎を築かれた方々は、自分への責任感が強く、思ったより早い離床に看護師が驚くこともあるくらいです。

私達は、持続的な痛み止めに加えて、一時的な痛み止めを適時使用し、苦痛を最小限に過ごせますよう対応しております。

最後に3階東スタッフの紹介をします。

医師は研修医を含めて14名、河原副院長以下4チームに分かれ、大腸、胃、食道、膵臓、胆のうなどの消化器系と、肺、甲状腺などの呼吸器系の疾患に対応しています。朝、夕の回診は勿論、頻回な訪室と説明は患者様から安心できたという声を頂いています。

看護師は24名、事務1名、看護助手3名です。皮膚・排泄ケア認定看護師や、感染管理、緩和ケア認定看護師と連携し、患者様の生活の質の向上を目指しています。

今年の病棟目標は、「医療と看護の協働～質の保障をし、患者様に安心を提供する」ということです。

『地域に愛される関東中央病院 外科』として、医師、看護師ともに日々研鑽していきたいと思っています。

3階東病棟師長：牟田 由美子